

講義名	自然観察入門			授業形態	
担当教員	南木 睦彦	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

身の回りの「自然」を観察することを通して、自然について学ぶ科目。観察眼を鍛え、記録の技術を学ぶ。観察結果を記録するためのことばの豊かさを身に付け、要所をとらえた描画の力を付ける。教室内外で様々な自然観察の機会を作る。様々な観察を通して学ぶ視点は次の通り。

1. 特定の視点や仮説を持って自然を見ると、それまでには見えていなかったものが見えてくる。普段は眺めているだけで、「観察」はしていないことが分かる
2. 仮説を持たずに自由観察することも有益なことがある。ネイチャーゲームを通じて、「自分で発見する」「自分で気づくこと」の大切さを学ぶ
3. 生物は進化の結果現在の姿になっており、形や構造は機能と密接な関係があり、合理的にできている
4. 観察対象によって、目どころは異なっている。観察の「コツ」がある
5. 進化的に近縁な種類は形や構造に共通点がある
6. 種類分け(分類)には様々な手法がある。種類分けをするための観察をすると、新たな気づきを得ることができる。種類分けをしたのちに同定の作業を行う

到達目標

自然の事物を観察してスケッチや言葉でその特徴などを記述することができる。「仮説を持っての観察」「仮説を持たない観察」「進化の結果を読み取る観察」「近縁種の類似点と相違点」「種類分け：分類と同定」など、様々な観点での観察をすることができる。自然観察で得た観察力を人工物などの観察に応用することができる。

提出課題

毎回の授業で、その日の観察で作成したレポートを提出する。このほかに一人ずつがテーマを持って授業時間外に継続的に観察をして、そのレポートを提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業の提出物は、基本的には次回に講評・解説するとともに、採点・返却する。授業時間外継続レポートについては、提出締め切りが授業終了後になる予定なので、Ryuka Portalを通じて、講評・解説する。

評価の基準

毎授業時の提出物60%、授業時間外継続観察レポート40%。
 毎授業時の提出物は1回につき4点で採点し、4点×15回で60点になる。「出席点」ではないことに注意すること。提出物があまりにひどい場合はマイナス点がつくこともあるし、非常に優れている場合は4点よりも高い得点(4.5点、5点)をつけることもある。
 授業時間外継続レポートの詳細は授業中に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

ルーベカ虫眼鏡など低倍率の拡大鏡を自分で用意することが望ましい。実習的な授業であるため、対面授業における遠隔は決してしないようにすること。

教科書

.使用しない.

参考図書

.身近な自然の観察図鑑（ちくま新書1251）	盛口 満	筑摩書房	946	4480069542
.動物の言葉 麗貴のコミュニケーション・パワー（ナショナル ジオグラフィック別冊）ムック	ナショナル ジオグラフィック（編集）	日経ナショナルジオグラフィック社	1540	4863134843
.気になるモノを描いて楽しむ 観察スケッチ.	権垣万里子	ホビージャパン	1980	4798619183

その他

毎回の授業開始時に当日資料を配布する。

授業計画

天候等により、観察の順や対象が変更になることがあります。 を付けた課題は屋外で実施します。
 オンデマンド授業との併用になる場合は、内容や順序を変更する。

1. 指図と掌紋
2. 産卵
3. 流通科学大学自然観察ビゴ（ネイチャーゲーム）
4. 空と雲
5. 大学周辺の土地利用
6. ドングリの仲間
7. マメ科種実の観察
8. 種実ミックス（ハムスターのえさ）の観察、分類と同定
9. 出汁じゃこ（カタクチイワシ）の観察
10. 落ち葉の分類と同定
 - 11 腐る種ペーパークラフト
 12. テリモン分類同定
13. 映像資料を用いた動物行動の観察
14. 自然観察から人工物の観察へ
15. 授業時間外作成レポート全体講評と、ふりかえり

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

学期ならびに大学設置基準により1回の講義について4時間の自己学習が必要とされている。この授業については、毎回の授業については、予習復習の必要はない。授業時間外学習としては、期末レポートの作成に、短い学生で1日、長い学生では数カ月かけている。レポートの作成に用いた労力も評価対象であるから教時間の労力では高い評価は望めないで注意すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「様々な観点での観察をすることができ、自然観察で得た観察力を人工物などの観察に応用することができる」という到達目標は、本学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力のうち、(2)知識を応用に変換することができる、論理的思考力を持った人材としての、情報収集力、情報分析力、課題発見力と関連している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

このシラバスは2022年2月に対面での実施を前提に執筆している。コロナ禍と関連して、一時的に通学困難になった学生や、病気や農事など理由のある欠席をした学生には、原則として授業部分を録画してオンデマンド配信する予定である。試料については入手が容易なものは自分で手配していただき、入手が困難なものについては次に登校した機会にお渡しする予定である。内容によってはオンデマンドでは不可能なものもあるのでその場合は、代替の課題を与える。